修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　前田　寛
〒101-0054　東京都千代田区神田錦町1-17-1（NK第一ビル）☎03(5259)0631
振　替　00160－7－36337

財団法人全国修学旅行研究協会（全修協）は、日本の教育の振興に寄与することを目的とし、教育を熱愛し子供たちの幸福を希求する人々の支持を得て、修学旅行の改善向上を目指して、全国的規模で活動する文部省許可の教育研究財団である。

大阪府富田林市立明治池中学校（二面に作文）

仏教会「地球と人にやさしい修学旅行」に賛意　学校の取組みに期待

京都・奈良の修学旅行を考える懇談会

修学旅行を考える懇談会

修学旅行の在り方について、寺院と学校とが意見交換をする二回目の懇談会が財団法人全国修学旅行研究協会の主催で七月十五日京都市のホテルサンフラワーにおいて開催された。今回は奈良の寺院の参加もあり、古都の修学旅行を考えるにふさわしいものとなった。

懇談会には、廣隆寺や金閣寺など京都の十三か寺と薬師寺や興福寺など奈良の三か寺の関係者二十一人、学校側は関東地区公立中学校修学旅行委員会の校長六人、全修協五人、オブザーバーとして京都市観光協会二人の合計三十四人が参加した。

懇談会は、主催者、寺院方の挨拶のあと、1「修学旅行における環境学習の意義」、2「修学旅行の現状と課題」の二つのテーマに沿って進められた。

1では、修学旅行と環境学習について、考え方や現状について学校側から「ごみを出さない、汚さないなどを基本として、寺院の自然や歴史的な雰囲気の中での感動や環境に目を向けさせることの可能性と必要性」が述べられた。寺院方からは、環境保全への努力や修学旅行への対応について「改めて環境保全ということではないが、日常の清掃に心配りをして環境を整えている。落書きは少なくなった」などの他、写経、法話、座禅、修養会、僧籍の者の対応など受入れの工夫が紹介された。寺院の自然的・歴史的・文化的環境の保全への努力は、当たり前のこととして続けられており、特に強調するものではないという印象を受けた。しかし、内面的なものへ働きかけるということについては、寺院の醸し出す雰囲気の中で、いろいろと心を配り、工夫しているようだ。地球と人にやさしい修学旅行の推進については寺院方も学校側の取組みに期待をしているようであった。

2では、生徒の求めるもの、学校・生徒への要望という形で意見交換が活発に行われ、寺院方の受入れの内容方法等についての情報提供、学校側の期待・希望等について、集約し交流し合うことが確認された。これについては、全修協がまとめ役をすることになった。

懇談会後の記者会見で、仏教会側は「修学旅行における環境学習の意義」や「地球と人にやさしい修学旅行の推進」など今回のテーマに期待しているとのコメントがあった。

主張

二十一世紀　修学旅行は変わるのか

専務理事　前田　寛

わが国特有の教育活動である修学旅行は、文部省の学習指導要領の特別活動の領域で学校行事の一つとして、遠足・集団宿泊・野外活動などとともに『旅行・集団宿泊的行事』と位置付けられ、『平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行なうこと』と定義されている。

これこそが修学旅行の基本的理念であろう。これは、数次に及ぶ学習指導要領改訂を経て構築され今日にいたっている。

修学旅行の歴史は、明治二十一年（一八八八）四月文部省が発した「尋常師範学校設置準則」において、この名称が初めて公的に使用され法制化されたときから数えて今年百十年を数えることになる。

さきの世界大戦のさなかにおいても、昭和十八年まで群馬県・長野県・山口県などの中学校・女学校で伊勢神宮への戦勝祈願を名目に京阪地方に修学旅行を実施した記録があり、また、終戦の翌年昭和二十一年には群馬・大阪・岡山・山口の各府県の中学校がいち早く修学旅行を復活させ、関西・四国・阿蘇などにこれを実施した記録もある。

戦後においても修学旅行は五十数年の歴史を数えるのである。このような歴史の過程を経て、いま修学旅行は様変わりしたといわれている。輸送手段は新幹線専用電車による連合体輸送にとって変わり、飛行機利用・海外修学旅行が急増し、見学の形態も班別自主行動が主流となり、体験学習が重視されている。

しかしこれらは、修学旅行の実施形態の変化であり、本質そのものの変革ではない。

かつて全修協においても、『二十一世紀に向けて新しい修学旅行の創造』を研究テーマに据えてこれを模索したが遂に結論を得るにいたらなかった経緯がある。

いま巷では二十一世紀の到来までのタイムテーブルが設置され、「二十一世紀に向けて云々」といった言い方が飛びかっている。だが二〇〇一年元旦が明けたからといって、政治・経済はじめ社会の状況が一八〇度転換するものではあるまい。変わりなく粛々と時が過ぎていくだけのことであろう。

修学旅行についても同じことではあるまいか。教育課程審議会の答申が近く行われ、第六次学習指導要領の改訂がおこなわれる時期も近い。しかし修学旅行の基本理念が変更されることはなかろうと考える。

五十年かけて多様化してきた修学旅行に、これ以上様変わりする余地はもうないのではないか。

強いて考えれば、二十一世紀の近い将来に、修学旅行航空機時代の到来が予測されるということか。

会長に　井上昭男氏

関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会（岡村政彦会長・前浦和市立本太中学校長）は、平成十年度総会を七月十四日ホテルサンフラワー京都で開催、(財)全国修学旅行研究協会前田寛専務理事の挨拶並びに当委員会の沿革の説明の後議事に入った。

平成九年度各地区修学旅行委員会及び当委員会の会務報告、全国中学校修学旅行実施報告、三地区計画輸送数の状況と今後の推移、完全学校週五日制実施に伴う修学旅行の課題に関する調査報告に続いて役員選出が行われ、井上昭男氏（西宮市立塩瀬中学校長）以下別掲の新役員の決定と平成十年度事業計画等を審議・決定した。

本年度の主な事業としての決定事項は次のとおり。

①修学旅行輸送の安全確保と修学旅行の学習の充実
②平成十二年度輸送計画の作成
③第十三回全修協修学旅行セミナーへの協力
④第十五回全国修学旅行研究大会への協賛
⑤平成十年度実施状況調査
⑥国庫補助金増額の陳情

平成十年度役員・委員名（各中学校長、敬称略）

会長＝井上昭男（兵庫・塩瀬）

副会長＝森川肇（愛知・富士）中川實（茨城・千波）

運営委員＝東野雅己（大阪・明治池）青山勉（岐阜・東長良）柳川達郎（埼玉・北本東）岡村政彦（全修協）

委員＝〈関東〉岡部成弘（茨城・水戸第三）落合延行（栃木・若松原）堀込紀夫（群馬・中之条西）永野宏（千葉・南総）

〈東海〉臼井美恵子（岐阜県校長会）西川廣郎（三重・殿町）野村定男（三重県修学旅行研究会）

〈近畿〉新谷紀久男（滋賀・彦根）高橋茂（滋賀・堅田）小林正二（京都・西ノ岡）杉原英雄（大阪・狭山）大西昌一（兵庫・大久保）中川修一（奈良・光明）中井泰一郎（和歌山・紀見北）

〈全修協〉飯塚碩彰（本部）神代義秀（大阪・北條直樹（大阪）水野清孝（名古屋）

事務局長＝岡村政彦（本部）

特別委員＝青木一（愛知）岡村政彦（埼玉）

顧問＝谷合良治（全修協）

参与＝前田寛（同）鴻田好通（同）

風紋

日本の無人小型衛星が、宇宙空間で分離・合体に成功した。国際宇宙ステーションなど将来の宇宙開発の基盤となる実験で、世界ではじめてという快挙だった。七月七日の七夕の空に「ひこぼし」「おりひめ」と名付けられた衛星のドッキングは、人々の夢をふくらませた▼その三日前には、日本初の火星探査機が打ち上げに成功、予定の軌道に乗った。順調に行けば、十二月には火星に向かい、七億キロの飛行の後、来年十月に火星を回ることになる。約二年間観測、その後も半永久的に軌道を回り続けるという。「のぞみ」と名付けられた探査機には、文部省科学研究所の募集に応じた約二十七万人の名前や短い文章が、アルミ版のマイクロフィルムに刻まれている▼小惑星は主に火星と木星の軌道にある無数の天体だが、その命名は発見者に委ねられている。「テズカ」「リョウマ」「ソウセキ」など日本人ゆかりの名のついた小惑星が約五百個もあるという話もある。世界の全登録数は約八六〇〇個、うち日本のアマチュア天文家の登録数は一二〇〇個余り、有名なパロマ天文台の登録数を超え、世界一になったという▼毛利さん、向井さんら、宇宙に羽ばたく日本人も増えつつある。かつて映画「二〇〇一年宇宙の旅」が日本でも公開され、大きな話題になったが、以来三十年、二〇〇一年を目前に控えて、宇宙への夢は着実にふくらんでくるようだ。（北）

教育の窓

教育改革プログラムと中教審答申概要

中央教育審議会答申

「新しい時代を拓く心を育てるために」―次世代を育てる心を失う危機と―

政府の六大改革の内、教育改革はプログラムの展開を早め着実に推進されている。その経過とこれからのタイムスケジュールを紹介して見たい。まず教育課程審議会関連では、平成八年八月、文部大臣よりの諮問を受けて平成九年十一月十七日に中間まとめ、平成十年六月二十二日に審議まとめ、七月末最終答申。これを受けて文部省は、小・中学校は年内に。高校は三月末を目途に省令改正・指導要領告示、平成十一年から十三年度に教科書編集・検定・採択、平成十四年度から完全学校週五日制と新教育課程の実施としている。

中央教育審議会関連では、平成九年八月、文部大臣から「幼児期からの心の教育の在り方について」の諮問を受け、平成十年三月三十一日に中間報告、平成十年六月三十日に答申、これを受けて、所要の施策が推進される。ところで、六月三十日に公表された中央教育審議会の答申は、三月の中間報告に対する各団体への意見照会、公聴会や国民からの意見の公募、また、小中学校のこども、保護者、先生と語る会等を行うなどして、更に意見を集約し審議の上、とりまとめられた。

この答申の特徴は、①家庭・地域・学校のそれぞれに対して、今なすべきことを、具体的に呼びかける提言方式を採っていること、②従前、国として取り上げることに慎重であった家庭におけるしつけの在り方等について具体的に提言していることである。ここではその章だてとその項目を紹介して見たい。これによって答申の要点と概要は理解できるものと考える。

第一章　未来に向けてもう一度我々の足元を見直そう

(1)「生きる力」を身に付け、新しい時代を切り拓く積極的な心を育てよう

(2)正義感・倫理感や思いやりの心など豊かな人間性をはぐくもう

「生きる力」の核となる豊かな人間性とは

①美しいものや自然に感動する心など柔らかな感性

②正義感や公正さを重んじる心

③生命を大切にし、人権を尊重する心などの基本的な倫理観

④他人を思いやる心や社会貢献の精神

⑤自立心、自己抑制力、責任感

⑥他者との共生や異質なものへの寛容

などの感性や心である。

(3)社会全体のモラルの低下を問いなおそう

問い直されるべき風潮

①社会全体や他人のことを考えず、専ら個人の利害得失を優先すること

②他者への責任転嫁など、責任感が欠如していること

③モノ、カネ等の物質的な価値や快楽を優先すること

④夢や目標の実現に向けた努力、特に社会をよりよくしていこうとする真摯な努力を軽視すること

⑤ゆとりの大切さを忘れ、専ら利便性や効率性を重視すること

(4)今成すべきことを一つ一つ実行していこう

第二章　もう一度家庭を見直そう

①家庭の在り方を問い直そう

②悪いことは悪いとしっかりしつけよう

③思いやりのある子どもを育てよう

④子どもの個性を大切にし、未来への夢を持たせよう

⑤家庭で守るべきルールをつくろう

⑥遊びの重要性を再認識しよう

⑦異年齢集団で切磋琢磨する機会に積極的に参加させよう

第三章　地域社会の力を生かそう

(1)地域で子育てを支援しよう

(2)異年齢集団の中で子どもたちに豊かで多彩な体験の機会を与えよう

(3)子どもに心の影響を与える有害情報の問題に取り組もう

第四章　章心を育てる場として学校を見直そう

(1)幼稚園・保育所の役割を見直そう

(2)小学校以降の学校の役割を見直そう（①～⑥は省略）

この他、中教審は平成九年九月「今後の地方教育行政の在り方について」の諮問を受け、平成十年三月二十七日中間報告、平成十年夏を目途に答申を行う予定、別に、生涯学習審議会、教育職員養成審議会、大学審議会、学術審議会、保健体育審議会等の諮問・答申、その後省令・法改正等所要の施策が推進されていくことになる。

（①～④は省略）

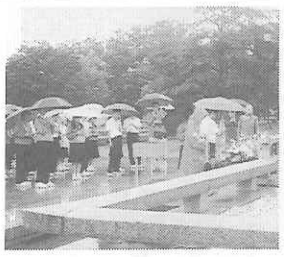
（総局長鴻田好通）

―修学旅行生の作文―

〈心に残る修学旅行〉

平和学習と体験学習

大阪府富田林市立明治池中学校　大堀雄一郎



修学旅行初日に、僕達をむかえたのは広島だった。そこで僕達は平和学習として、数少ない被爆体験者の一人、松原さんの話を聞くことができた。先生によると、被爆体験をされた方が少なくなってきて、自分達が生の話を聞けることは、とても貴重な経験であるらしい。その分、皆は真剣に聞いていて、それぞれの意見を持ったことだろう。その後の、資料館、公園内の見学でも、僕達は、核兵器のおそろしさと、平和の尊さを感じて積極的に平和学習に臨んだ。なんせ、次の世代に、この原爆の誤ちを伝えるためには、僕達がそれぞれに理解する必要がある。これを歴史のある一つの出来事で終わらせてはいけない、そう感じた学習だった。あいにくの雨で傘をさしながらとなった慰霊式も無事すみ、一行は広島を離れ、山口に向かった。

二日目、朝早くから恐ろしいような美しいような数多くの岩に包まれた秋吉洞を見学した生徒を乗せ、バスは九州へと向かう。きれいな海を越え、そして「九州だぁ…。」という大きな満足感にひたっていると、もう太宰府に到着。それぞれの願いをご多忙な道真さんにおしつけ、それから絵馬を書いたり、お守りを買ったりと色々である。昼食をすませればすぐに出発。次の吉野ケ里遺跡も魅力あふれる物で、高くそびえる〝物見やぐら〟をおがめばその木の組立てに舌を巻く。ここで一句、「半そでの我等をみるは弥生人。」…今回持ち物として自由になったカメラを取り合う姿が多くあった。気付けば日は傾き、こも去ることになった。明日はいよいよ――阿蘇山が僕達をむかえる。

期待どおりのスケールの大きさと、三日目の朝の清い空気がそこにあった。活火山で、今でも何回か爆発をおこし、普段でも煙がもくもくと天に昇るこの山。表面の美しい風景とは裏はらに、一変すると地獄絵と化す。それが自然というものなのだろう。それから、僕達は草千里で阿蘇景色を見納めて、ファームランドへ向かった。そこでは、乗馬、オルゴール作り、和紙作りなどのそれぞれの選択種目に分かれた。特に乗馬では、係の人が馬をひかず、自分の思うがままに馬をあやつれた。その姿はまるで戦国武将。己の技術のよさにうっとりする者や、オルゴール、ガラスなどを作ることを楽しむ者など、色々なことで、一人一人が楽しい時を過ごした。そして十分な満足感を体中につめ、この旅行の終りをむかえた。この四日間で僕達は様々な所に行き、そのつど貴重な体験に出会った。これは、僕達で作った楽しい思い出であり又、忘れることのない思い出になるだろう。

行　程

2日（火）学校集合 5:55　出発 6:10 ―― 新大阪駅 7:30 ---- 広島駅 8:09 ―― 平和公園 10:08　平和学習（聞き取り、資料館見学、慰霊式）10:30 ―― 秋芳ロイヤルホテル泊 14:30 17:20

3日（水）宿舎 8:00 ―― 秋吉台展望台 8:05 ―― 黒谷口 8:20 ---- 秋吉洞 8:30 ―― 太宰府天満宮 9:30 ―― （昼食）12:10 13:30 22:30　吉野ケ里遺跡 14:30 ―― 杖立温泉ひぜんや泊 15:30 17:00

4日（木）宿舎 8:00 ―― 阿蘇山西駅 9:30 ―― 火口西（阿蘇山頂）9:40 ―― 草千里 10:00 ―― 阿蘇ファームランド 10:40　（昼食）エルパティオ牧場 10:40 ―― 体験学習 12:00 ―― 別府観光港 14:10 15:00 16:00 19:00

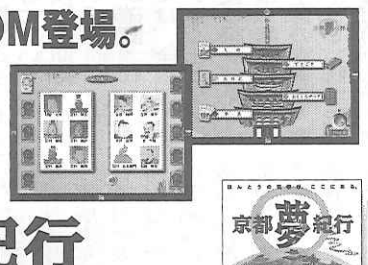
5日（金）大阪南港 9:00 ―― 学校 9:20 10:20

マルチメディアのNEC　NEC

京都をクリック。興味へジャンプ。

「調べ学習」の決定版CD-ROM登場。

京都1200年のすべてを、
文字データ1600件と1000件ものビジュアルデータに。
社会科の授業、修学旅行の
事前学習や手引きに最適。



文部省学習用ソフトウェア研究開発委託事業

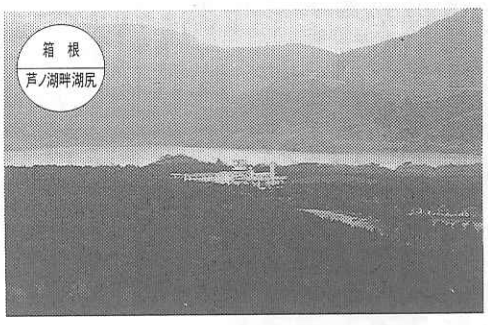
Windows対応
マルチメディア コンテンツ
CD-ROMパッケージ

ほんとうの京都がここにある
京都夢紀行

企画・制作/京都夢紀行研究開発委員会
（京都市教育委員会・京都新聞社・NEC）

標準価格4,800円（税込）
※Windowsは、米国マイクロソフト社の米国及びその他の国における登録商標です。

◎お問い合わせは… NEC京都支社
〒600-8424 京都市下京区堀川通綾小路下ル綾堀川町293-1 TEL.075-352-2261
URL：http://www.meshnet.or.jp/neckyoto



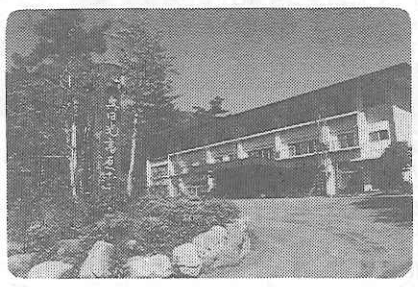
豊かな自然が息づく湖尻高原の中心。
箱根高原ホテルは、深い緑の中に
700名収容の大ホールや、
中小の研修室など、
数々の施設が整っています。
その他体験コースもいろいろ。
心にのこる想い出づくり
感動づくりに素晴らしい環境です。

湖尻高原の大自然に抱かれて
ハートフル・コミュニケーションをお約束します。

箱根高原ホテル
〒250-0500 神奈川県足柄下郡箱根町湖尻
☎(0460)4-8595㈹ FAX.(0460)4-9488

●修学旅行/林間学校/スキー体験学習

奥日光の自然と仲間たちとの語らい……

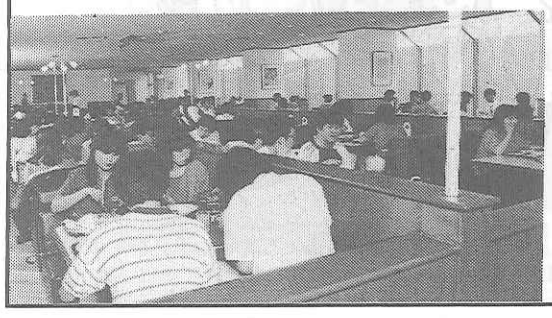


夏は林間学校、冬はスキー
自然探勝の基地として日光国立公園
内にたつ当ホテルをご利用ください
鉄筋3階建／小学生550名／中学生550名／
高校生450名収容／大浴場あり

奥日光高原ホテル
〒321-1662 栃木県日光市湯元温泉
TEL. 0288(62)2121(代表)

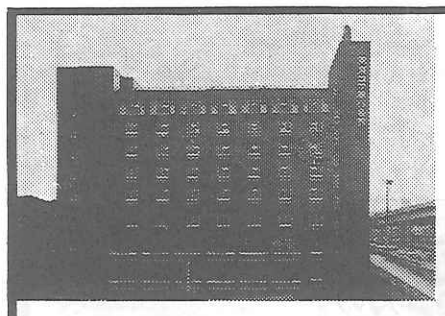
――修学旅行の楽しいお食事――

箱根彫刻の森美術館内
レストラン コンポート



◇500名様迄、ご利用いただけます。
◇当レストランは、彫刻の森美術館内の施設ですので、入館を必要とします。

〒250-0407
神奈川県足柄下郡箱根町
二の平1121
☎0460(2)2221（予約センター）



東京コマ旅行会館は
第8回優秀防火建築表彰で
建設大臣賞を受賞いたしました。
東京でのお泊りは
安全設備を誇る当会館へ。

東京タワー、国会議事堂を間近かに望む東京の中心にあり、8階建の近代ビルで、修学旅行の皆様に、より有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。

ホテル〈全館和室〉
東京都港区六本木1丁目7番地
TEL(03)3585―1046(代表)

東京 コマ旅行会館